

1 【音声作品台本】 現役魔法少女が出演するアダルトビデオ撮影

2 ～お嬢様ヒロインがおほ声～女優に堕ちるまで～

3
4 テキスト：明日葉あすは、原作：ドダメ

5
6 ■概要

7 主要人数：1人

8 時間：110分

9 ■ジャンル

10 ボイスドラマ、魔法少女、催眠洗脳、風俗

11 ■キャスト

12 魔法少女マジカル・エリリン（台本ではエと略称）

13 : 分倍河原シホ様

14 ■ シーン〇

15 廃墟の部屋の中に殴り込んできたヒロイン。

16 ○前面6―遠

17 堂々とした大声で。

18

19 エ「おっつほほッ!! ここが催眠洗脳動画を配信している怪人
20 のアジトですわね!」

21 エ「いたいけな市民の皆さんを操って墮落エナジーを回収している
22 現場は抑えました!」

23 エ「言い訳無用!」

24 エ「内容など見ずともわたくしのエリート魔法で証拠の収集から黒
25 幕の探知まですばつとまるわかりです! あとは犠牲者の市民
26 の皆さんの洗脳を解くため、大本の怪人のあなたを倒すだけで
27 すわ!」

28 エ「さあ、怪人催眠カメラ男! 雑魚戦闘員はそこにいる二人を除い
29 て全員ぶちのめしました」
30

31 ○前面6―近

32 勝ち誇ったように。

33

34 エ「残るは、あなた達、三人だけでしてよ!」

35 エ「こんなちんけな廃屋ビルが拠点で、規模もあまりに小さくわたく
36 しが相手をするまでもない小物ですが……わたくしの目に止ま
37 ったのが運の尽きですわね!」

38 エ「せめて、エリート魔法少女ブリリアント・エリリンに叩き潰され
39 ることを光栄に思いながら消え去るといいですわあ！ おくっ
40 ほほほほほッー！」

41

42 ○前面6―接

43 気合の入った声で。

44

45 エ「はあっっ！」

46

47 ○前面6―中

48 堂々とした声で。

49

50 エ「どうしましたっ？ 洗脳的能力を使ったようですが、そのような
51 下賤な能力まったくもってお効きしませんわ。んふふふふふっ、
52 笑止千万です！」

53 エ「正義の魔法少女のわたくしが怪人の力にやすやすと屈するなど
54 ありえませんか！」

55

56 気合の入った声で。

57

58 エ「マジカル必殺・ストレートですわあー！」

59

60 ○前面6―遠

61 勝ち誇ったように。

62

エ「……ふうっ。見かけによらず素早いですね。今度はマジカル殲滅・スラッシュで……今更命乞いなど意味はありませんですよ」

65

よくわかってない感じで。

66

67

エ「つぶ……えーぶい？　なんだか、よくわかりませんが、どんな勝負でも、」

70

勝ち誇ったように。

72

エ「このわたくしが負けるはずがありません！　受けて立ちます

73

わー！」

74

75 ■シーン1

76 ○前面6―遠

77 勝ち誇ったように。

78

79 エ「いいでしょう。まずは」

80

81 よくわかってない感じで。

82

83 エ「……インタビューですか？ まあ、えーぶい勝負の決まりごとな
84 ら仕方ありませんわ」

85

86 ○前面6―遠、右を向いて

87

88 エ「こちらの椅子にすわればいいんですね」

89

90 ○前面6―遠

91 やや馬鹿にしたような感じで。

92

93 エ「あ、わたくしのキュートでエレガントな魅力でしたら、いくらで
94 も答えてあげますが、個人情報NGですわ」

95 エ「なんせ、上流階級の出身ですから、平民と違って、守るべきもの

96 がたくさんありますの」

97 エ「んふふふっ」

98

99 堂々とした声で。

100
101 エ「さあ、どこからでも、質問なさい。完璧な、えーびい撮影前イン
102 タビュー、華麗に決めてみせますわ」

103 エ「おーっほっほっほー！」

104

105 嬉しそうな感じで。

106

107 エ「さ、わたくしのエレガントな姿を、しっかりお撮りなさい！」

108 エ「後世に美しい記録として残るものですものね。んふふっ♪」

109

110 ややテンションを普通に落として。

111

112 エ「あら、質問カンペの準備まで、用意周到ですこと」

113 エ「で、最初の質問は——」

114 エ「このヘアセット、どこでセットしているか？ ですね」

115

116 自慢するような感じで。

117

118 エ「このドリルロールのセットは、もちろんわたくし専属のヘアメイ
119 クアップアーティストにさせておりますのよ」

120 エ「セットに二時間かかりますが、その分早起きして、優雅なティー

121 タイムを楽しんでおりますわ」

122

123 堂々とした声で。

124

125 エ「さ、どンドン質問なさい」

126 エ「エレガントな上流階級の暮らしを紹介しますわ」

127 エ「ええと次のカンペは、魔法少女をやる理由、ですか？」

128 エ「それは決まっておりますわ。困っている平民を助けるのが、わた
129 くしたち上級国民の義務、ノブレスオブリージュですわっ！」

130

131 やや馬鹿にしたような感じで。

132

133 エ「魔法少女の露出が多い衣装を恥ずかしいと思ったことがあるか
134 ですって……愚問ですわね」

135

136 堂々とした声で。

137

138 エ「わたくしの完璧な体に恥ずかしいところなどありません。この衣
139 装もわたくしのパーフェクトなシルエットを完全にマッチして
140 いるデザインですわ。恥ずかしがる点などありません」

141 エ「次の質問は……」

142

143 びっくりした感じで。

144

145 エ「週に何回、オナニーするか、ですって……一？」

146

147 恥ずかしさ半分、怒り半分と言った感じで。

148
149 エ「どうしてわたくしが、そんなお下品な質問に答えないといけない
150 んですか」

151
152 一転して、答えるのが当たり前と言った感じで。

153
154 エ「……確か先週は3回でしたが」

155
156 違和感に気づいていない感じで。

157
158 エ「あら、どうしましたの？ 催眠洗脳なんてかかってるわけありま
159 せんわ」

160 エ「まあ、催眠カンペなんてまだいってらっしゃるの。今のはえーが
161 い勝負の作法に従ってインタビュアーに答えてるだけですわ」

162
163 特に気にしていない感じで。

164
165 エ「……あれ、なにかおかしいような……まあ気の所為でしょう」
166 エ「次は……処女膜の意味ですか？ まったく、そんな簡単な質問、
167 処女膜とは女性の性器の入り口を守っている純血の証で……殿
168 方との性交渉が、」

169
170 驚いている感じで。

171

エ「あれ？ 未経験で、口が止まらない！？」

173

一転して、平坦に答えてる感じで。

175

エ「処女であることを示すものですわ」

177

混乱している感じで。

179

エ「明らかにおかしいですわ……どうしてわたくし、こんなお下劣な
問いに、答えなくてはならないのですか……くうっ……！」

182

エ「もういいですわよね。次に行ってくださいませっ……！」

183

冷静になった感じで。

184

エ「これで、最後ですね」

187

言い切って驚いた感じで。

189

エ「え……現役魔法少女がアダルトビデオに初チャレンジ、処女オマ
ンコは戦闘員チンポに勝利できるのか？ ですって……！」

192

混乱している感じで。

194

195 エ「な、ななな、このわたくしを バカにしていますのっ!?!」

196

197 恥ずかしがって居るけど無理して言っている感じで。

198 エ「でっ、できますわ、そのぐらい……わたくしのおまんこが、単な

199 る戦闘員ふせいに負けたりなど……」

200

201 混乱している感じで。

202

203 エ「何かわからないですが、このままではまずい気がしますわ! ……

204 ……」ここは問答無用で、あれ、でもえーぶい勝負を宣言して……ま

205 さかあの宣言をしたせいで催眠洗脳をわたくしに!?!」

206 エ「あんっ……な、なにをいきなり……」

207 エ「女性の目の前でズボンを……っ!?!? そんな破廉恥なもの、恥を

208 知りなさい!」

209

210 焦っている感じで。

211

212 エ「っく、魔法のステッキをぶろうとすると体が……」

213

214 混乱している感じで。

215

216 エ「っっっ……やっぱり、おかしいですの……」

217

218 戦闘員が目の前で自慰を始める。

219 ○前面6—中、右を向いて

220
221 エ「わたくしが自分から殿方のオチンポと勝負する気になるなんて」

222
223 焦っている感じで。

224
225 エ「くっ……まさか、催眠カメラ男の術中にはまって……いえ、そ
226 んなことは……絶対、絶対にありませんわ……！」

227 エ「このブリリアント・エリリンが淫らな催眠にかかるなど、そんな
228 初歩的な手に引っかかる、素人魔法少女ではありませんもの…
229 ……」

230 エ「あ……それ、また催眠カンペ……だ、ダメですよッ、」
231 エ「戦闘員のチンポ抜きなど、見たくありませんのに、」

232 エ「うっっ、顔が動かさせませんの……視界に、どうしても入れてしま
233 いますのッ！」

234
235 羞恥と驚きが合わさった感じで。
236

237 エ「おっ、おやめなさいッ……いや、いやあッ……！」

238 エ「そんなカツチカチにお勃起した男性器、お父様のも見たこと無い
239 のにー!? 目の前につきつけてこないでくださいませッ……！」

240 エ「はあ、はあはあ、親指よりも太い胴体がビクビクう、震えてえ、
241 そんな下品な真似を、このわたくしの前で……！」

242 エ「もう、おやめなさい。やめなさいと言っているのですー！」

243 エ「え、えーぶい勝負……これが勝負ですってー?」

244

245 無意識に興奮して声が震えてきてる感じで。

246

247 エ「先端がいやらしく跳ねて、ふう、ふうっ……射精って知りません
248 わそんな下品な知識ー!」

249 エ「くうっ、口が勝手に……これがえーぶい勝負なんですの!?! ま、

250 負けるわけがありませんわ。わたくしはエリート魔法少女ブリ

251 リアント・エリリン……なんですからあ」

252

253 戦闘員が男性器を握らせてくる。

254 ○前面6ー近、右を向いて

255

256 エ「ひゃあっ、わたくしの手のひらに擦りつけながら、」

257

258 怯えと羞恥が合わさった感じで。

259

260 エ「ひい、ひいっ、激しく扱かないでくださいまし……あぶ、んぶう、
261 先端からくっさいお汁が溢れてきてはあはあ、お鼻がひんまが
262 ってしまいますわあ」

263

264 催眠で自慰中の男性器の実況が口から自然に出てしまっている
265 流れ。

266

だんだん興奮が高まっていく感じで。

267

エ「こ、これぐらい……ひいつー!？」

269

エ「んぶうッ……お勃起が……はっ、激しく跳ねあがってえ……」

270

エ「そ、そんなあゝッ……!」

271

○前面の一中

273

射精。

274

275

気づかないうちに嫌悪感が少なく、興奮の方が大きくなってい

276

く感じで。

277

278

エ「ああああっ、汚らしい白濁液が、いっぱい出されていますわ……」

279

エ「手コキぶっかけ射精……なんて、お下品な、はあ、はあ……こん

280

なくっさい男性の体液……これが精液なんですか？ ザーメン

281

なんてお下品な呼び方っ、どちらでもいいでしょっ!」

282

エ「このブリリアント・エリリンの手になんという……指の間まで、

283

ねっとねとのドロドロでえ、あぶ、はぶう……」

284

悔しそっ!」

286

287

エ「……とてもお下品な攻撃ですわね」

288

エ「ですが、このわたくしは簡単に悪に屈したり、いたしませんわ」

289

エ「あぶ、はぶう……興奮なんてしていませんっ!」

290

291 ○前面6―近

292 勝手に興奮度が上がってしまったていく感じで。

293

294 エ「あんんっ……なっ、なんですの……そのカメラ、先程はまったく
295 気にならなかったのに……」

296 エ「向けられると、はあはあ、おかしな気分になってしまっ……♡」

297 エ「こんな下賤な行為で喜ぶわけが……ありえません！」

298

299 慌てている感じで。

300

301 エ「まるでオナニーしたあのような……はっ！？ なしです、今の
302 なし！ つく、なんて卑劣なっ！」

303

304 混乱している感じで。

305

306 エ「なんですの、これ……ううっ……」

307

308 ○前面6―中

309

310 エ「なにを笑っておりますの……はあ、はあ、失礼ですわよ……！」

311 エ「ん、そのカンペは……」「くりっ……」

312

313 軽くイっているのを声を殺して耐えている感じで。

314

315 エ「んん、んんっ……」

316

317 驚いている感じで。

318

319 エ「魔法少女のお清楚ショーツのナマ脱ぎ……ですって……」

320 無理をして堂々と言っている感じで。

321

322 エ「こ、これは勝負ですから。わたくしが催眠洗脳なんてかかっている

323 わけがないですわ。えーぶい勝負」とき問題なくやりきって勝

324 利してみせますわ」

325

326 慌てている感じで。

327

328 エ「ぬ、濡れてるのは汗です……」

329

330 羞恥で声を震わせている感じで。

331

332 エ「なんて下品な勝負……殿方の前でしょ、ショーツを脱ぐなんて……」

333 ……」

334

335 慌てている感じで。

336

337 エ「脱ぎたてパンティの攻撃力ですか？ ま、まあわたくしぐらいに

338 になると下着からも……あ、あっ広げて移さないでくださいー!？」

339 エ「これだから下賤な者たちはっ！」

340

341 混乱している感じで。

342

343 エ「つぎは……ほ、本番ですよ？ なんでもそちらの戦闘員はすでに仰
344 向けて倒れて……ひ、卑猥な所をむき出しに……っ。」

345

346 無理をして堂々と言っている感じで。

347

348 エ「セックスの意味ぐらいっ……え、ええー？ ……お、怖気づいて
349 なんているわけが、ないでしょうっ！？ もちろんう、えーぶい
350 勝負でせ、セックスすることぐらい……ほ、ほんとに……っく、
351 宣言を取り消すなんて卑怯な真似はしません！」

352 エ「さ、お早くなさいっ……そのお勃起い、」

353

354 不安そうに。

355

356 エ「魔法で処女膜の強度を上げておけば大丈夫ですよね……」

357

358 ○前面6ー近

359 混乱している感じで。

360

361 エ「え、この薄いパネルは……っ？」

362

エ「わたくしのお腹の上に……っ、はあはあ……これ、まさか、お

363 まんこの中味まで……全部、すけすけで……あうう……まる見
364 えですわね……なんという破廉恥なものを……」

365 エ「あ、ああ、あああつ……ちよ、ちよつとお待ちなさいっ……」

366 エ「まだ気持ちの準備が、あひ、あひあ、あつあああつ……いきなひ
367 硬い……んぐぐつ……いつ、痛いいい……つく、こんな雑魚チン
368 ポなん、つてえ!? 絶対負けるわけがつ、あ、あつ……」

369

370 ○前面6―近、右を向いて

371 虚勢を貼っている感じで。

372

373 エ「ぶう、ぶうっ……げ、下品な表現ですがエリートのわたくしの膺
374 への称賛はうけと、っんん!? くうっ、すぐに慣れて逆転して
375 みせますわっ!」

376

377 慌てている感じで。

378

379 エ「え、まだ入り口!? あ、んあつ……無理やりい、こじ開けられ
380 てえ……奥まで全部う……」

381 エ「ぶぐ、んぐう……え、ええ、戦闘員にしては、んあつ!? ま、
382 負けませんとも! 魔法少女が墮落エナジーを回収されるなん
383 て不名誉なことっ んおっ♡」

384

385 ○前面6―近

386

411 エ「あ、ああ、あっああ、ピストン、はっ、激しっ……」
412 エ「こんなッ……あ、ああ、あっああんッ……」

413
414 催眠カンペで更に上書きされる。
415 驚いている感じで。

416
417 エ「あうう……ちんぽ大好き淫乱体質に、なる、ですって……」
418 エ「そんな変なカンペえ、また見せないでくださいませ……!」
419

420 ○前面6―近、右を向いて
421 快感に痛みを上書きされて混乱している感じで。
422

423 エ「こんな下品な催眠洗脳なんか、にいつ、なんですこれ!?!」
424 エ「感じてるっなんてえっ、あん、あんあん♡」
425

426 快感に流されそうになっている感じで。
427

428 エ「わたくし、そんな淫乱で下賤な女では、ございま、んああっ
429 ♡♡-?-?」

430 エ「あ、ああ……らめ、らめえッ……」
431 エ「急になんなんですかこれ!?! 激しいのにとろけるようになっ♡
432 ぞわぞわ何か登って♡……あ、あ、あ♡ あっおおっ♡」
433

434 羞恥に震えてる感じで。

435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458

エ「品性のかけらもない声え、出て、しまいますのッ……！」

○前面〇一中

なんとかやる気を振り絞っている感じで。

エ「うう……雑魚戦闘員などにつ……痛みがなくなったのでしたら
……んあっ♡ エリート魔法少女のじつりよおっ♡ くうっ♡
……はあ、はあっ♡ 見せてあげますわっ♡……！」
エ「あひ、はひい……あん、あんあん、あっあんっ……！」

無意識に快感を受け入れて嬉しそうに。

エ「おまんこをつ……締め付けてえっ♡ ……ふう、ふあっ♡ 敵に
アドバイス、するなんて、後悔しますわよっ……んあっ♡ こう
やって腰をひねって戦闘員おちんぼなんかっ♡」
エ「くひ、ふひい、んっいいっ……！」
エ「あ、ああ、あふあッ、あはあッ、んっああッ……！」
エ「うっっ、おまんこ気持ちいいですわっ♡ 戦闘員オチンポっ奥ま
でっ♡……っく、カンペに書かれたことに逆らえないなんてえ
っ♡」
どんどん興奮していって息が荒くなっていく感じで。

459 エ「ひん、ひんひん、エリート魔法少女のわたくしがドスケベなオチ
460 ンポ大好きメスに墮ちるなんてっ……ありえませんか……ん
461 おおっ♡」

462 エ「あひ、はひい、んいっ……透過パネルの映像っ♡ あんな奥ま
463 で♡ んあっ♡ わたくしの中に♡ か、顔の横にチンポがつい
464 ている映像っ♡ あ、あっ♡ あああ♡ なんて下品なっ♡」

465 エ「程度の低い男性はこんなことで興奮♡ んおっ♡ するのです
466 か♡」

467
468 ○前面6ー近、右を向いて

469
470 エ「っ……くうっ♡ 声出るのは♡ ひいっ♡ これぐらいでっ♡
471 わたくしを負かしたなんて♡ おうっ♡ んおっ♡」

472 エ「最高なわけっ♡ こんなザコチンポでっ♡ わたくしの相手え
473 っ♡ あお、あおお、あおうっ♡」

474 エ「ぶっといので、おまんこグチュ混ぜえ♡ 攻撃なんて効くわけっ
475 ♡ んんん、ッ♡♡♡」

476 エ「はあ、はあっ♡ もっと淫、語？ オスマラ、んあっ♡ デカマ
477 ラっ♡ えっちな言葉でっ♡ そんな下賤な言葉、わたくし
478 の口に喋らせないください！？ っく、そのカンペに書かれ
479 ると、ダメ、デカマラチンポ下のお口に突っ込まれるとよだれだ
480 らだら流して美味しく頂いてしまいますわっ♡」

481
482 □では否定しても声は完全に喜んでいる感じで。

483
484 エ「思つてません！ んひいつ♡ そんな、こどつ♡ あひつ♡ し
485 たのお口はそんなこと思つてないって♡ ああ♡ そんな突き
486 上げちゃダメえ♡」
487 エ「わたくひ、こんなに淫乱な女では、ないですに、」
488

489 ○前面6—中
490

491 エ「ああ、カンペ見せないでくださいまし！ 読んじやう♡ 下品な
492 セリフロから出ちやいますわっ♡ はお、はおお、はおうッ、え
493 ーぶい勝負で、雑魚戦闘員のデカマラチンポ攻撃に負けてイッ
494 ちやいますの♡」
495

496 本気で絶頂している感じで。
497

498 エ「ああ、ああおお、あっおおおっ、イクう、イクイクイクう、イグ
499 うんッ……処女だつらのにい、イっひやいますのお——ッ♡♡」
500 エ「あっおおおおお——ッ♡♡♡」
501 初めての絶頂後で息絶え絶えな感じで。
502

503 エ「あえ、あええ……んふええ……」
504 エ「びしゃびしゃあつて、あんなにわたくしの中で♡ カメラと透過
505 パネルでそんなところまで撮られて♡ 無様に負けてしまうな
506 んっ」

507 エ「はあ、はあっ♡」

508

509 シーン転換。

510

511 ○前面9—中

512 困惑している感じで。

513

514 エ「か、カメラに向けて一言ですの……♡」

515 気丈に振る舞っている感じで。

516 エ「はあ、はあっ♡ これはリベンジですよ……そう、まぐれで1

517 回勝ったぐらいでは、わたくしの心をおることなんて出来ませ

518 んのよー!」

519

520 竿役に騎乗位で乗りかかる所。

521 ○前面6—近

522 ちよっと嬉しそうに。

523

524 エ「怪人であるアナタ。催眠カメラ男を倒してしまえば問題ありませ

525 ん。こ、こんなザコ……戦闘員より二周りほどおおきい♡

526 つく、それでもわたくしは負けません♡ あ、あ♡ 顔に先端を

527 突きつけないでくださいー!？」

528

529 催眠を更にかけられて淫乱なことが当たり前になっている。

530

531 エ「ふー、ふー♡ 先程の戦いでデカマラチンポの対処法は完璧です
532 わ♡ こうやって下品なポーズで♡ 挑発してあげればいいの
533 ですわね♡」

534

535 完全に発情して息を荒くしている感じで。
536

537 エ「しっかりと、ガニ股になってえ、おまんこくぱあ、いたしまして
538 ♡ こ、これはえーぶい勝負のためですから……ギャップ萌
539 え？ はわかりませんが、けっしてわたくしが望んでいやりし
540 い姿、カメラに向けてるわけっ……んおお♡♡♡……」
541 エ「んひいつ♡ しょんにゃ♡ 思ってたよりもっ♡ んおお♡っ♡
542 大きいっ♡ で、でもお、負けませんことよ♡」
543

544 ○右耳の近
545

546 エ「あん、あんあん、いっぱひ腰い、振ってえ、あなたのお勃起から、
547 んお、んおお♡ ザーメン搾って、さしあげます♡とよ♡」
548

549 下品に声を堪えられなくなってる感じで。
550

551 エ「ひっ♡ ひぐっ♡ おひおっ、おほおんッ……ちつきよりも、
552 感じてしまっっ……ひい、ひいんッ……」

553 エ「い、いったおまんこで、連続ハメえ、すっっ、すっすぎですわ♡」

554 エ「ほお、ほおおっ、おっほおお……」

555

○前面6—近

557

558 エ「またカンペー!? 破廉恥なオホ声でいきまくって……!?!?

559 オホ声? なんおほおっ♡ え、えー!? こんな下品な声……

560 お、お” おほっ♡ オホ声止まりませんわ♡!?!?”

561 エ「おまんこの感度、おふ、ほふう、おふおッ、爆上がりしてえ……」

562 エ「油断してると、意識い、ぶっトんでしまいそうですのお♡」

563

564 完全に快楽に流されて声を上げている感じで。

565

566 エ「おおっ、イグ、イグうん♡ またいつでえ、しまいますッ♡」

567 エ「連続イギいしたらあ♡ 誰の目から見ても、完全敗北ですのお♡」

568 エ「戦闘員チンポにイがされでえ、怪人チンポにも、おう、おうっ、

569 おっうっ、気持ちよべ♡ させられてしまいますのお——ッ♡♡」

570

○前面6—中

571

572

573 発情しきって下品に嬌声を上げてる感じで。

574

575 エ「れもお、耐えるの無理い、無理無理無理、無理いいッ♡」

576 エ「えーぶい勝負なのに連続敗北いき晒してしまいですわっ♡」

577

578 中出し射精。

579

エ「おお、おおお、おっほおん……おっほおおお——♡♡♡」

581

582 射精中。

583

○前面6—近

584

585 エ「んひいつ♡ まだまだ射精止まりませんわっ♡ わたくしのあ

586 そこから白いのいっぱい溢れて♡ んお”♡ こんな無様な所

587 撮られてるのに♡ イってしまいますの♡ カンペのせいです

588 わ!?! こんな悔しいのに♡ 両手でピースなんて恥ずかしい

589 格好で♡ ああっ♡ チンポ動かしちゃだめですわ♡ またイ

590 ッて墮落エナジーを放出してしまいます♡ んほおっ♡ ん

591 ひいひいっ——♡♡♡……!」

592 ■シーン2

593 廃墟の部屋の中に殴り込んできたヒロイン。

594 ○前面6―遠

595 怒りで声を荒らげている感じで。

596

597 エ「前はよくもヤツてくれましたわね！」

598

599 堂々と言っている感じで。

600

601 エ「催眠カメラ男っ！ こんどこそ墮落エナジーの回収を阻止して
602 みせますわっ！」

603 エ「ボロボロのビルに逃げこんで、隠れたつもりですか？ わたくし
604 の目はごまかせませんわよ」

605

606 ○前面6―遠

607 勝ち誇ったように。

608

609 エ「一度、わたくしに勝利したからといって、油断しましたわねえ。

610 んふふっ、アナタの能力は把握いたしましたわ。同意しなければ、
611 そのお下劣な催眠洗脳には、かからないのでしよう」

612 エ「今度こそわたくしが完膚なきまでに叩きのめしてさしあげます

613 ことわ」

614 エ「おーっほほほほっ！」

615

616 ちよつと不安になっている感じで。

617
618 エ「え、後催眠？　ふふん、そんなもの……ん♡　んんっ♡」
619

620 堂々とした感じで。

621
622 エ「そんな、苦しまぎれの嘘には引つかかりませんわ」
623

624 後催眠で常識改変されてる状態。

625 ○前面6―近

626
627 エ「それじゃあ、覚悟してオチンポを出しなさい」

628 エ「エリート肉便器ヒロインのわたくしが、あなたのザーメンっ、空
629 っぽになるまで、とことん搾り抜いてあげますわー！」

630
631 ちよつと不安になっている感じで。
632

633 エ「なっ、なにを笑っているのですかー！」

634
635 誇らしげに旨を反らせて。

636
637 エ「わたくし、ブリリアント・エリリンはエレガントで、キュートな
638 最高のスーパーヒロインですわよっー！」

639 エ「もちろん、生ハメおまんこも、極上の使い心地ですよ」

640 エ「ならば、選ばれし者の務めとして、怪人どものオスマラにドスケ
641 ベゴ奉仕して、こつてりザーメンをたくさん頂くのが当たり前
642 でしょっ?」

643 自信を持って言っている感じで。

644

645 エ「笑止♪ わたくしは、後催眠になど、かかっておりません」

646 エ「あなたの顔を見てしまつて、即、自らを肉便器と思ひこんでしま

647 うなど、」

648 エ「絶対にッ、ありえないことですわ!」

649

650 ○左耳3―遠

651 驚いている感じで。

652

653 エ「催眠カメラ男、ここまで来て、逃げるのですか?」

654 エ「お待ちなさい!」

655

656 ○前面6―遠

657

658 勝ち誇つたように

659

660 エ「トイレに逃げ込むなんてなんっておバカなんでしょう。おーほほっ

661 ♪ トイレほど肉便器のわたくしに、ふさわしい場所はござい

662 ませんわよ」

663

664 ○前面6—中

665 感心している感じで。

666

667 エ「ふん、なかなかキレイですわね」

668 エ「エリート肉便器ヒロインのわたくしにぴったり♪」

669

670 ○左耳3—中

671 ちよつとキョトンとした感じで。

672

673 エ「え……壁尻ですの？ ふふっ、それぐらい問題ありません」

674

675 やや混乱している感じで。

676

677 エ「わたくし、変身ヒロ……あれ、なにか変でしたっけ？ んんっ♡

678 ではなく、肉便器ですもの♡」

679

680 ○前面6—中

681 自信を持って言っている感じで。

682

683 エ「壁尻A級免許を持っておりますわ♪」

684

685 エ「むっちむちのデカ尻で、はあはあ、怪人たちのオチンポから、ザーメンを搾ることのできる、最上、最高級の肉便器にだけ与えら

686 れる、栄光の資格ですの♪」

687

688 ○前面4―中

689 ちよつと馬鹿にするような感じで。

690

691 エ「あら、壁尻用の部屋まで用意してそんなにわたくしにやられたい
692 のです?。」

693 エ「中はカンペの差込口とお尻を出す穴だけ。体も顔もほとんど動け
694 なくて、扉を閉じたら外の様子は全くわからなくなるのですね」

695

696 ○前面6―近

697 自信を持って言っている感じで。

698

699 エ「ふふふ、良いでしょうあなた達の策に乗ってあげます!」

700

701 壁尻に自ら嵌って挑発。

702

703 エ「さ、わたくしをバックからお使いなさい」

704

705 声はマイクで収録している設定。

706 勝ち誇ったように。

707

708 エ「あなた達は為す術もなくチンポからザーメンを搾り取られて墮
709 落エナジーを回収できなくなるほど空っぽにしてあげますわ!」

710

711 尻側に戦闘員が来た所から。

712 やや発情している感じで。

713

714 エ「んっ♡ これはお尻を手で掴まれてますわね。乙女の生尻を遠慮
715 なしに揉みしだいて♡ ふふんっ、本来ならあなた達がさわる
716 ことなど指先でもありえないのですのっ、んおっほお。っ♡」

717

718 男性器を女性器に挿入。

719 唐突な快感でびっくりした感じで。

720

721 エ「前戯もなく♡ んぁ♡ おちんぼ挿入するなんてッ♡ なんて礼
722 儀のなっぺない♡」

723

724 やや発情している感じで。

725

726 エ「これは、はあはあ、戦闘員チンポですわね」

727 エ「こんな太くて下品なチンポ♡ わたくしでなければ壊れてしま

728 いますわよっ♡」

729 エ「んおっ♡ わたくしのお尻の魅力に負けて腰を振り始めました

730 ねっ♡」

731 エ「もっと激しくしないと、わたくしのほうから、んんんっ、」

732

733 嬉しそうに。

734

735 エ「おまんこを締めてえ、それえッ、ザーメン噴き出させますわ♡」

736

737 バカにした感じで。

738

739 エ「うんんっ♡ 他愛ないオチンポです」と♡」

740

エ「もう降参ですよ、精液、びゅぐびゅぐお漏らしして、はあ、はあっ♡ 本当にザコいですわねえ。んっ♡」

742

743 だんだん興奮して発情していく感じで。

744

745 エ「次のオスは誰で……あお、あおおっ……これは、硬くて太くてえ、
746 エクセレントなデカマラですのお♡」

747

エ「ほお、ほおおっ……抑えようとしてもドスケベな喘ぎい、」
748
749 とても嬉しそうに。

750

751 エ「溢れてしまっって、はあ、はあはあ、これは怪人級のチンポお……
752 ふう、ふうっ、催眠カメラ男、あなたのですわね♪」

753

エ「ぶぶっ、辛抱たまらなくて、激しいピストンで、はあ、はあっ、
754 奥までぐちゅ混ぜにされていくの、わかりますわ♡」

755

756 完全に発情しながら勝ち誇ってる感じで。

757

758 エ「おふ、おふお、おほお……はあ、はあ、怪人ちんぽおっ大きいで
759 すわ♡ おっほっ♡ でも、エリート肉便器のわたくしには通

760 用しませんことよっ♡」

761 エ「ぎ、このまま、わたくしのおまんこで、んんっ、ザー汁バキュー
762 ムう、いたしますのお、んん、んんっ、んっんんっ♡♡」

763

764 とても嬉しそうに。

765

766 エ「……あん、あんあん、射精しながらあ、ピストンっ♡」

767 エ「さすがに怪人は簡単に参りませんわね……」

768

769 アナルに指を突っ込まれる。

770 驚いている感じで。

771

772 エ「って、ほお、ほおう、ほおおおっ、そこは、お尻い……」

773

774 初めての快楽に困惑している感じで。

775

776 エ「まだあそこにチンポ入ってるのに……んおっ♡ お尻の穴に、

777 硬くてごっついのお、おお、おおほお、押し込まれてえ……」

778 エ「おん、おんおん、おっんんっ……これえ、なんですよー!？」

779 エ「大体乙女のお尻にいきなりっ♡ 心の準備が、ふひ、はひい、ら、

780 らめえッ……」

781

782 快楽でとろけきってる感じで。

783

784 エ「ああ、ああお、ああうう、ちめって言ってるのに、お尻の奥で、
785 ぶるぶるう、お、おお、おっおおっ……おっほおんッ……」

786 エ「ほんろに無理ちってえ、アナルの内側の振動すくくってえ、くひ、
787 んひい、肛門がぱっくり開いたままに、ふひ、はひい、なっひや
788 うッ♡」

789

790 顔をのけぞらせているイメージ。

791 ○前面6ー近

792 感じきって声を荒らげている感じで。

793

794 エ「おマンコの方も激しくっ♡ ブルブルぐちよぐちよは溶けちゃ
795 いますう！?。」

796 エ「おまんこズボズボ、絶対変になるヤッ♡」

797 エ「おほっ♡ しかし、これっ♡ んおおっ♡ ぐらいでっ♡ エリ
798 ート肉便器ヒロインのわたっ♡ あ、あっ♡ あああっ♡」

799 エ「お潮吹いてイってしまっうなんてっ♡!?! ひいっ♡ ひぐうっ♡
800 止まりませんっ、怪人チンポで2つ穴攻めで♡ イくの止まり
801 ませんわっ♡♡♡」

802

803 混乱しながらイッてる感じで。

804

805 エ「おう、おうう、おうううっ、今度は別のチンポっ、そ、そこはっ

806 ♡ 硬いの抜かれたお尻い♡ あ、あっ♡」

807

808 ○前面6―近

809

810 エ「え、カンペ。お尻の穴はアナルって言うんですの？ んあっ
811 わたくし、アナル弱いのですわー!？」

812 エ「ああ、ああう、ああおっ、アナルにズボズボお、ほお、ほおお、
813 激しくって……あ、あん、あっああ……あっおおッ……」

814 エ「おまんこも一緒にぐちゅぐちゅ♡ わけわかんないのお……♡」

815

816 ○前面6―近

817 イきっぱなしになってる感じで。

818

819 エ「こんなに激しいの、お、おお、ほんろに耐えられない♡」

820 エ「ほお、ほおう、わたくし、精液搾るのが使命なのに、おふ、おふ
821 お、先にアグメっひゃうのお♡」

822 エ「おほっ♡ ふおおっ♡ おっおお♡ お、っほおん、ッ♡」

823

824 ○左耳3―接

825 イツたあとで息も絶え絶えになってる感じで。

826

827 エ「はあ、はあ♡ はああ♡……これで終わりですか♡ たわいも…
828 ……」

829

830 ヒロインの目の前の扉が開いてチンポを突きつけられる。

831

832 エ「あら、小さな扉？ お口の前に開いて、んぶっ！？」

833

834 ○前面6―近

835 喜びながらもなにかおかしいと混乱している感じで。

836

837 エ「いきなひオチンポが目の前にい……なんて臭いチンポ♡ んち

838 ゆ♡ こんな狭いところだとお口とチンポがくっついて♡ わ

839 たくしなんでこんな下品なチンポにキスして♡ 臭いの♡

840 あれ、でも肉便器ですからチンポをお口できれいにするのも、あ

841 れ？」

842

843 フェラ開始。

844

目の前のチンポをフェラ。

845

846 エ「んおっ♡ お尻の方もまた誰かが突っ込んで♡ んちゅっ♡ れ

847 ろっ♡ こんなくっさいちんぽわたくしのれろれる攻撃で♡」

848 エ「ちゅぶっ♡ れろっ♡……んおっ♡ おほおっ♡……はあ、はあ

849 っ♡ ちゅ♡……んぶっ♡ んぼっ♡……じゅるっ♡ じゅる

850 るるっ♡」

851 エ「れもお、わたくひ、負けませんわ……♡」

852

853 とても嬉しそうに。

854

855 エ「こんなにくっさいの♡ 硬くてお口壊れちゃうぐらい大きく

856 て♡ んちゅぶう♡ わたくし全力で」

857 エ「オチンポから、せーえきい、搾りますわ、ぢゅばぢゅぶ、」

858

859 ディープフェラしている感じで。

860

861 エ「んちゅぶう、ぢゅぼぢゅばぢゅぶ、ぢゅぶぶう♡」

862

863 催眠を解かれて我に返る感じで。

864

865 エ「あぶ、はぶう……え、カンペ……体の感度は変わらずに意識の常
866 識改変だけ解除、ですの？……え、ええ！？」

867

868 驚いている感じで。

869

870 エ「体が壁に埋まって、お尻も顔も動かさせませんわっ！」

871

872 ○前面6―近

873

874 エ「あそことお尻になにか入って！？ 目の前にあるのはオチンポ
875 ですよ…？」

876

877 驚いてるけど快感に塗りつぶされて感じてる感じで。

878

879 エ「んおっ♡ んぶう♡……臭くて苦しくて気持ち悪いはずなのに

880 「♡」
881 エ「気持ちよくなってて、こんな……ありえませんが……」
882 エ「お尻もおマンコもチンポ抜き差しされてるんですの♡！？」
883

884 ○前面6ー近
885

886 エ「わたくしがっ、エリート魔法少女の♡　だめですわっ♡　チンポ
887 攻め♡　すゝすぎっ♡」

888 エ「せ、精液の匂いっ♡　こんなにくっさくてどろどろで♡　ちんぽ
889 で喉♡　じゅぼじゅぼされてるのにつ♡　おほっ♡　んお”♡」

890 エ「体が下品チンポの味♡　覚えさせられて♡　勝手に喜んでお便
891 器みたいに使われてるの♡　おっ♡　んお”♡　おお”お”
892 っ♡♡♡　墮落エナジーがっ♡」

893
894 イツてる感じで。
895

896 エ「イグ、イグイグイグ、イグうんツ……♡」
897

898 一度射精した前後の男性器が抜かれる。
899 息も絶え絶えな感じで。
900

901 エ「んっぶ♡……全部にドロドロのくっさいザーメン♡　はあ、ふあ
902 あ♡　いきすぎて体に力が入りませんですわ♡」
903

904 別の男性器とバイブが再挿入。

905 ○前面6―近

906 新しい刺激にびっくりしながらもイッてる感じで。

907

908 エ「ぴあっ♡ またチンポが差し込まれて♡ お尻とおマンコにも♡」

909

910 感じながらも困惑している感じで。

911

912 エ「あ、あ♡ まだ終わりではないですの……そんなあ……！」

913 エ「あお、あおおっ、あおうんッ……」

914

915 ○前面6―近

916

917 エ「そんなあ、あんなに出したのに、あなたたちまだあ、」

918

919 連続イキしている感じで。

920

921 エ「ひん、ひんひん、ひいんっ、三つ穴ピストン、すっしゆぎい♡」

922 エ「これえ、無理い♡ 無理無理無理いッ……もっ、もう無理ですわ

923 あっッ……？」

924 エ「あ、ああっ♡ またひゃいって♡ お便器みたいに乱暴にっ♡」

925 エ「あああっ……♡♡♡……！」

926 ■シーン3

927 ○右耳9―遠

928 元気な感じで。

929

930 エ「皆さま、今日はわたくし、ブリリアント・エリリンのファン感謝
931 祭に来ていただきありがとうございますわー！」

932

933 嬉しそうに。

934

935 エ「この狭い地下ライブ会場に、百人、集まっていただけで、本当に
936 うれしいですよ♪」

937

938 声のトーンを下げた悔しそうにつぶやく感じで。

939

940 エ「……つく、わたくしから回収した墮落エナジーでこんな大規模な
941 催眠洗脳を起こすなんてなんとという卑劣な行為……」

942

943 ○前面6―遠

944

945 エ「おのれ、催眠カメラ男つ、許しませんことよ……しかし、指示通
946 り進めないとなファンの皆さまが大変な目に……くっ……ここは、
947 耐え忍んで、スキ隙を見つけるしかありませんわね」

948

949 ○右耳9―遠

950 ファンに向き直ってごまかす感じで。

951
952 エ「あ、いえいえ、なんでもありません。こちらのことですよ。お
953 ほほほっ♪」

954
955 元気な感じで。

956
957 エ「それでは、抽選でチケットを入手した幸運なファンのかたがた
958 に、」

959 エ「おちんぼ握手会を……」
960
961 びっくりした感じで。

962
963 エ「って、え？……お、おちんぼ握手会……！？」

964
965 困惑している感じで。

966
967 エ「出されたカンペとは言え……わたくし、なんて、お下品なことを
968 □走ってしまっ……」

969
970 びっくりした感じで。

971
972 エ「ひゃあっ！？ 一番先頭にいるファンの方がズボン脱いでっ」

973

974 悔しそうに。迷っている感じで。

975

976 エ「くっっ……フアンのかたがたは操られてるだけで、悪くありませ
977 んもの……」

978 エ「魔法少女の力を使えば、たやすく払いのけられますが……」

979 エ「ですが……一般のかたに、この力、使えませんもの……！」

980

981 ○前面6—中、左を向いて

982 驚いている感じで。

983

984 エ「え、そのカンペ……ごっくっ、一人一人に手コキだなんて……」

985

986 催眠で発情して声はずんでしまっている感じで。

987

988 エ「それに、わたくしが精液大好きに……そんなこと、ありえません
989 わ……」

990

991 フアンの一人目を手コキ開始。

992 とても嬉しそうに。

993

994 エ「ふー、ふー♡ 握ってしまいました……え、ええ♡ 応援ありが
995 とっっ♡ございますわ♡」

996

997 催眠で発情して声はずんでしまっている感じで。

998

999 エ「もうこんなに硬くなつて♡ ーくっ♡ ー、これは催眠洗脳で…
1000 …ああ、精液の匂いが♡」

1001 エ「でも、怪人のスキを窺がうためにも、ん、んんっ、続けないと、
1002 はあ、はあっ♡……はあ、はあっ♡……ああっ♡ー！」

1003

1004 驚いているけどとても嬉しそうな感じで。
1005

1006 エ「射精していますわ♡ びゆるびゆると、気持ちよくお射精されて
1007 ……んっ♡ ふあ……手袋どろどろですわ♡」

1008

1009 嬉しそうに。
1010

1011 エ「満足いただけで、よかったですわ……はあはあ、案外、すぐに射
1012 精していただけますのね♡ これでしたら、楽勝ですわ♡ あ
1013 んっ、またあ、お射精なさって」

1014 エ「もう少し、頑張つて、あぶ、んぶう、くださいませえ♡」

1015

1016 発情して息が荒くなっている感じで。
1017

1018 エ「はあはあ、精子の匂いがとっても臭いですわ♡ こんな臭いの
1019 ♡ わたくし……」

1020

1021 ○前面6ー中、左を向いて

- 1022
- 1023 エ「あ、この大ジョッキに受けて、溜めていくんですのね」
- 1024 エ「あん、あんっ、すっごい勢いでお射精なされてえ、」
- 1025
- 1026 完全に発情している感じで。
- 1027
- 1028 エ「はぶ、あぶう、みるみるうちにい、おジョッキにどろどろのお汁
- 1029 が溜まっていきますわね、んふう♡」
- 1030
- 1031 ファンに群がられる。
- 1032 嬉しそうに。
- 1033
- 1034 エ「ひゃっ♡ 列は守ってくださいまし♡ もうっ、皆さんオチンポ
- 1035 を好きなところに擦り付けて♡ 仕方ないですわね♡」
- 1036 エ「せめて両手でシロシロ♡ して差し上げますわ♡」
- 1037
- 1038 ちょっと困ったように
- 1039
- 1040 エ「あぶ、んぶう、もう、顔ではなく、ちゃんと、この中に出してく
- 1041 ださいませえ、んぶ、はぶっ♡」
- 1042
- 1043 完全に発情している感じで。
- 1044
- 1045 エ「手も、腕も、顔もお、どろっどろのせーえきれえ、でろでろです

1046 のお、はあ、はあっ……」

1047 エ「あ、大丈夫ですわ♡ 緊張なさらないで、シコシコ、シコシコシ
1048 コっ、わたくしの指先のいやらしいテクれえ、リラックスなさっ
1049 て、んん、んんっ、ご自身で腰をお振りいただいて、構いませ
1050 んわ♡」

1051 エ「それ、それぞれ、んんっ、さ、出してくださいませんっ♪」

1052

1053 とても嬉しそうに。

1054

1055 エ「あぶ、んぶう、んぶぶっ、おジヨッキになみなみと溜まってきま
1056 したわ」

1057 エ「わたくしの脇に二っ、んんっ、おっぱいにも、」

1058

1059 フエラしている感じで。

1060

1061 エ「うぶ、はぶう、お口もどっぞお、んぶう、ちゅぱちゅぶ、わたく
1062 しこんなにいっぱいファンのチンポと精子にまみれてう、ちゅ
1063 ぱ、ちゅぶちゅぼ、んちゅぶう、んぶぶう♡」

1064

1065 顔に向かって大量の白濁液をぶっかけられた感じで。

1066

1067 エ「あぶ、あぶぶっ、んんぶう、んんんっ……」

1068

1069 完全に発情している感じで。

1070

エ「精子の匂いだけで♡ イっちゃうっ♡」

1072 エ「んん、んんぶう、目の前、真っ白れえ……はあ、はあ、ザーメン

1073 で溺れてしまいそうれすのお……♡」

1074 エ「なんて濃厚なせーしなんでしょっ♡ もっといっばいいいっばい

1075 お出しになっ♡」

1076 エ「はあ、はあはあ、こっちにもあっちも、たくさんお勃起い、素敵

1077 ですわ♡ オチンポ林に包まれて、あふ、はふう、せーしの濃厚

1078 な匂いで、酔ってしまっっておりますの♡」

1079 エ「うっっ、特製のザーメンジョッキにも、すっい量、溜まっています

1080 わ」

1081 エ「白くて、ねっとりしたおザー汁う、はあ、はあっ……くうッ……

1082 きっつい匂いが、たまりませんことよ……♡」

1083

1084 ○前面6—中

1085 驚いているけど少し嬉しそうに。

1086

1087 エ「ま、またカンペですの……まさか、そんな……♡」

1088 エ「『精液大好きなエリリンが笑顔で百人ぶんのザーメンをジョッキ

1089 で美味しく飲み干す』だなんてえ……」

1090

1091 嬉しそうに。

1092

1093 エ「うっっ……手が勝手にジョッキを……仕方ありませんわ……」

1094 エ「やればよいのですわよね……ふう、ふうっ……♡」

1095 エ「ううっ、栗の花の匂いなんてレベルでは、ありませんわね」

1096 エ「溜めこんだギトギトの童貞ザーメンを濃縮したような……はあ、
1097 はあっ……」

1098

1099 快感でいきそうに。なってる感じで。

1100

1101 エ「これを皆さんの目の前で♡こんなに臭いの♡ どろどろで

1102 絶対人が飲むものじゃないの♡」

1103 エ「これは催眠のせいですよ。そうじゃなきゃこんな美味しそうだ
1104 なんて♡ 精液のぷりぷりの感触を想像するだけでいきそうだ
1105 なんて♡ 思ってるわけでは……♡」

1106

1107 リアル寄りの演技ではなくて可愛い感じで。

1108

1109 エ「すーはー♡ すーはー♡……い、いきますわ♡……んっ♡……ん
1110 っ……「く、くっ、じゅるっ♡ すりゅりゅっ♡」「きゅっ
1111 っ♡、んんん”っ♡……んぶはあっ♡」

1112

1113 困惑している感じです。

1114

1115 エ「あ、あれ、美味しいですわ」

1116 エ「こんな美味だなんて、ああっ、ダメだとわかっていながら、」

1117

1118 美味しそうに。飲んでいる感じで。

1119

1120 エ「いっくっ、いっくいっく、んくくっ……♡」

1121 エ「うっっ、どっっしましろう……んくんく、んくっ、あふう……どん

1122 どん飲んでしまっってえ止まりませんわ♡ いっくいっく、いっくっ

1123 ……」

1124

1125 けぶっも可愛い感じで。

1126 ○前面6ー近

1127 とても嬉しそうに。

1128

1129 エ「ぶー、ぶー♡……けぶっ♡ ……はあ、はあ♡ 喉の奥までせー

1130 しの匂いで、なんでこんな美味しい……いいえ、いいえ、こんな

1131 下品なせ、せーっ♡」

1132

1133 ちよっといッてしまった感じで。

1134

1135 エ「美味しいなんてなんて下品な催眠なんでしょうか。んあっ♡」

1136

1137 とても美味しそうに飲んでいる感じで。

1138

1139 エ「けど、んぐ、んぐんぐ、いっくいっく……」のナマっぽっろっろ

1140 の喉越しに、ねっつりと絡みつきながら、」

1141

1142 ちよつとイッてしまった感じで。

1143

1144 エ「んあっつ♡……はあ、はあ♡ い、イってなんかいませんの
1145 よー？ んんっ♡」

1146

1147 とても美味しそうに飲んでいる感じで。

1148

1149 エ「せーしに酔ってしまったみたい♡」

1150 エ「んんっ、くくくく、くくんっ……んぷはあゝっ……♡」

1151

1152 エ「ああっ全部飲んでしまいました。つく……こんな下品なものなの
に、もつと、もつと飲みたいですの」

1153

1154 ちよつと恥ずかしそうに。

1155

1156 エ「それもこれも、わたくしのせいではありませんわよ」

1157 エ「もつと、欲しいなんておもちやうのも♡ 体が熱いのも♡」

1158 エ「あふ、はふう、なにもかも、催眠洗脳のせいですからあ♡」

1159

1160 シーン転換。

1161

1162 ○前面〇一中、左を向いて

1163 息を荒くしている感じで。

1164

1165 エ「せえはあ、はあっ……♡♡」

1166
1167 困惑している感じで。

1168
1169 エ「え……また、催眠カンペ……」くっ……」

1170
1171 驚愕している感じで。

1172
1173 エ『特別企画、特濃エリリンちゃんに中出し抽選会』ですって……!」

1174 エ「ちよ、ちよっと、中出しって……か、勝手に決めないでください
1175 ませ……」

1176
1177 恥ずかしそうに。小声で

1178
1179 エ「確かに、オチンポ中に入れてないのは……その、物足りない、と
1180 ……」

1181
1182 我に返って大声で

1183
1184 エ「わ、わたくし何を言って!?! ええい、それもこれも全部催眠洗
1185 脳のせいですわ!」

1186
1187 気圧されている感じで。

1188
1189 エ「うっっ、会場の盛り上がり、す……いのです……」

1190

1191 やや諦めている感じで。

1192

1193 エ「はあはあ、こんなに皆さま、わたくしの中に出したいんですね
1194 ……それに、ルーレットまで持ち込まれて……」

1195 エ「あ……中出し抽選会ですのに、ルーレットの半分が中出しで、」

1196

1197 ○前面〇—中

1198 困惑している感じで。

1199

1200 エ「もう半分が、ぶ、ぶっかけ……ですのっ……!?!」

1201

1202 慌てているけど半分ぐらい嬉しそうな感じで。

1203

1204 エ「だめですわ!?! さっきの精液大好きになる催眠がのこってる
1205 のに♡ こんなこんな……ああ、ファンの皆さん、あれだけお出
1206 しになったのにおちんちんをまたガチガチに勃起させてますわ
1207 ♡」

1208 エ「わたくし、ザーメン潰けにされてしまうって考えただけで♡ 下
1209 品、下品ですわ♡」

1210

1211 抑えているけど興奮し始めている感じで。

1212

1213 エ「あ……そんな……抽選会、始まってしまっ……」

1214 エ「ファンの皆さまがルーレットを回して……」

1215 エ「あ……いきなり、中出し挿入、当選ですね……」

1216

1217 ○前面〇一中、左を向いて

1218 嬉しそうなのが隠しきれない感じで。

1219

1220 エ「次々にぶっかけのヒトまで……いや、いやあ……そんなっ……！」

1221 エ「え、えっ♡ はずれのぶっかけの人が並んで……見抜き……パン

1222 ツを脱いでっ、こうですっ。」

1223

1224 パンツにぶっかけ。

1225 うっとりとした感じで。

1226

1227 エ「ひゃっ♡ あっっ♡ 2回目なのに濃いせーし♡」

1228 エ「うっっ、1回ぶっかけたら、また再抽選だなんて」

1229

1230 嬉しそうなのが隠しきれない感じで。

1231

1232 エ「そんなあ、全員に回されること確定ですわよね……それっ……」

1233 エ「しかも、こんなに多くのファンから……うっっ……わたくし、い

1234 ったいどうなってしまっのっしょうか……♡」

1235

1236 完全に発情しちゃってる感じで。

1237

1238 エ「……はあ、はあ、いやらしい精液の匂いで、頭がくらくらしてえ、
1239 なにもかもどうでもよくなってきた……」

1240 エ「あ、ああっ、さっそく当選者のオチンポお……」

1241

1242 仰向けで挿入。

1243 快樂に震えている感じで。

1244

1245 エ「お、おお、おっおおっ……奥にぶち込まれましたのお……♡」

1246 エ「ぶっといので、おまんこぐちゅ混ぜええ……力が、あん、あんあ
1247 ん、入りませんの……♡」

1248 エ「ふひ、くひい、お勃起の抜き差しい、すぐくつれえ、さすがはわ
1249 たくしのファンですの♡」

1250 エ「お、おお、おほお、あそこがめくれてえ、内側のヒダヒダあ、見
1251 えてしまってますの、おひ、ほひいッ……」

1252

1253 困惑している感じです。

1254

1255 エ「しかも、んい、んいい、ちょ、ちょっと、そのかた、わたくし
1256 の自慢の髪で、何を……いっ？」

1257 エ「ああ、セットしたドリルロールはそんなことに使うためでは！？」

1258

1259 イってしまっている感じです。

1260

1261 エ「下品な髪コキい、やめてえッ……ひい、ひいんッ……♡」

1262 エ「あぶ、はぶう、んんんっ、髪も顔も、ザーメンで、ドロドロです
1263 のに、どンドン、ぶっかけされてええ……」

1264
1265 顔に大量に白濁液をぶっかけられている感じで。

1266
1267 エ「んん、んんぶ、うぶうッ……」

1268
1269 イってしまっている感じで。
1270

1271 エ「こんなの気持ち良すぎてイッてしまいますわっ♡♡♡」

1272 エ「あ、ああ♡ お出しなれましたの♡ びくびくっ♡ 子宮に
1273 あっつい精子が流れ込んできますわ♡」
1274

1275 ○前面6—中

1276 嬉しそうな感じで。

1277
1278 エ「い、いき顔を褒められましても♡」

1279
1280 困惑しながらも感じている感じで。
1281

1282 エ「あんんっ、そんな次のお勃起い、挿入されて、ふひ、くひい、あ
1283 んあんあん、いきなり激しいピストンっ、あ、あう、あうあ、不
1284 意打ちはらめえ、らめですのお♡」

1285 エ「んあ、んあああっ♡ んっあああ——ッ♡♡」

1286 エ「わたくしとセックスがつ♡ 夢でしたって♡ 複雑な……あ、あ
1287 つ♡ 心境ですが♡ んんうっ♡」

1288
1289 イきっぱなしになってる感じで。

1290
1291 エ「腰打ちつけるみたい♡ 戦闘員より激しい♡ んおお♡」

1292 エ「墮落エナジの回収を阻止しないといけませんのー!? おほ
1293 つ♡ んん♡っ♡」

1294 エ「あ、あ♡ あああっ♡ イきまくっちゃってますわ♡」

1295 エ「奥も手前も、わたくしの感じる場所に、くださいませ♡」

1296 エ「ああ、ああお、ああうんっ……おっおお……もう限界いっ……お
1297 まんこ、きもちよぐっでえ……高いのが来てしまいます♡」

1298

1299 快樂に飲まれて自分から求めていく感じで。

1300

1301 エ「ファンチンポ気持ち良すぎですわ♡ もっと、もっと来てくださ
1302 いまっ♡」

1303 エ「ぶっかけのみなさんもいっぱいっぱいっぱいっぱいっぱいっぱいっぱいっ
1304 たくしを応援してくださいっ♡♡♡……」

1305

1306 エ「おほっ♡ んお♡ 生出しせーし凄っ♡」

1307 エ「子宮が溺れてしまいますわ♡」

1308 エ「フアンのせーしで溺れいきしっちやいますわあっ♡♡♡……」

1309

1310 シーン転換。

1311

1312 ○前面6—中

1313 イき果てたあとで息も絶え絶えになっている感じで。

1314

1315 エ「はあ、はあはあ、皆さんの応援せーし中にも外にもいっぱい頂き

1316 ました♡」

1317 エ「んひっ♡ ファンチンポ中毒になりそうですわあ……♡」

1318